

●家族との関係

大学生はアイデンティティの形成と巣立ちの時期

発達課題についての研究で有名なエリクソン(Erikson, E. H.)は、**青年期の課題をアイデンティティの形成**、つまり、「自分が自分以外の何者でもなく、以前からもこれから自分であり続けるという自覚を持つこと」であり、「さらにその自分が社会の中で受け入れられていくという確信を持った状態」を得ることとしました。

大学を卒業し、社会人になって自立するときには、このアイデンティティの形成は一つの重要なテーマになっていきます。

自分がどこで何を生業(なりわい)とし、どのように生きていくのか、そのこととアイデンティティとは密接に関係してくるからです(「卒業への準備段階 社会人になるということ」参照)。

家族との信頼関係が自立を促す

幼少期から家族と良好な関係の中で過ごすことのできた学生は、**安定した居場所、帰ってこられる場所としての家や家族**を基盤として、安心して巣立っていくことができると言われてい

ます。しかし、いろいろな葛藤や問題を家族との間で抱えている学生が、自分らしい生き方を求めて自立しようとする時には、親からの離脱が難しい場合があります。



<参考>

エリクソン、E.H. (西平 直・中島由江訳) (2011). アイデンティティとライフサイクル 誠信書房
(Erikson, E.H. 1959. *Identity and the life cycle*. W.W.Norton.)